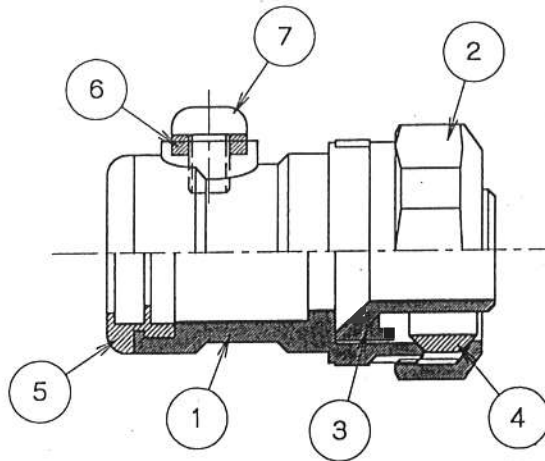


# 2種可とう管用附属品（ねじなし接続用） コンビネーションカップリング仕様書

## 1. 主要部の材質及び品質



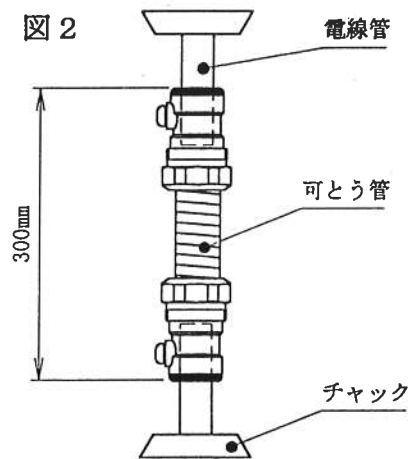
- ① 本体 JIS H 5301のZDC-2種(亜鉛合金ダイカスト)にJIS H 8610のMFZn II (1種2級)電気亜鉛メッキを施す。
- ② 袋ナット JIS H 5301のZDC-2種(亜鉛合金ダイカスト)にJIS H 8610のMFZn II (1種2級)電気亜鉛メッキを施す。
- ③ インナー Sleeve JIS H 5301のZDC-2種(亜鉛合金ダイカスト)にJIS H 8610のMFZn II (1種2級)電気亜鉛メッキを施す。
- ④ グラントパッキン JIS K 6380, B型2級  
NBR(ニトリルゴム)硬度65° (±5° )
- ⑤ 防水パッキン EPT(エチレンプロピレンゴム)硬度65° (±5° )  
薄鋼用(グレー色) 厚鋼用(ブラック色)
- ⑥ 平パッキン JIS K 6380, B型2級  
NBR(ニトリルゴム)硬度65° (±5° )
- ⑦ 締付ボルト JIS B 1174六角穴付きボルト  
SUS304(ステンレス製)

② 接続引張強度試験

図2に示すように、2個の附属品をそれぞれ適合する可とう管の両端に、その全長が約300mmとなるように接続した組立品を試料とする。

試料に管軸の方向に30秒から40秒の間に $500 \pm 10$  Nに達するように連続的に増加する引張荷重を加え、2分±10秒間保持した後、荷重を取り去る。

試験の後、試料の接続部に状態及び目視で見ることのできる損傷があつてはならない。(締付ねじモーメントは2.9Nmとする)



電線管接続部の引張試験

呼び	引張荷重(N)	判定
19 16	1471	適合
25 22	2206	適合
31 28	2775	適合
39 36	3119	適合
51 42	4050	適合
63 54	4452	適合
75 70	4452	適合
82	4452	適合
92	4452	適合
104	4452	適合

2種可とう管接続部の引張試験

呼び	引張荷重(N)	判定
17	500	適合
24	500	適合
30	500	適合
38	500	適合
50	500	適合
63	500	適合
76	500	適合
83	500	適合
101	500	適合

### 3. 各種試験 (JIS C 8350 9に準ずる)

#### ① 耐衝撃性試験

耐衝撃性試験は、12個の資料について図1に示す装置を用いて行う。

試験の前、附属品はすべての購入部品を通常に使用する状態に組立てる。

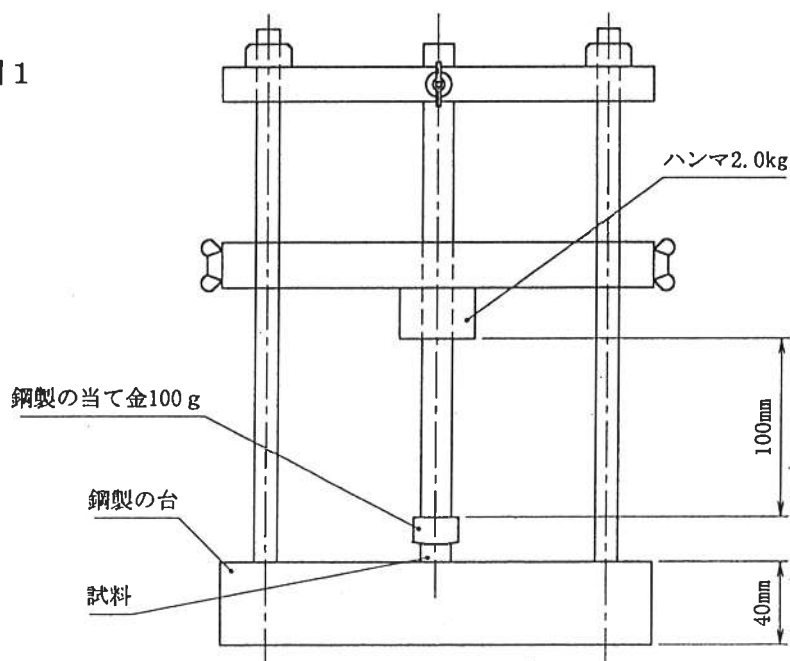
圧縮しないときの厚みが約40mmのゴム板の衝撃吸収材の上に置いた試験装置を試料と共に恒温槽に入れ、 $-5 \pm 2^{\circ}\text{C}$ の温度に保持する。

試料が $-5 \pm 2^{\circ}\text{C}$ の温度に達するか又は2時間後か、いずれか長いほうの時間が経過した後、試料を図1に示すように鋼製の台の上に置き、ハンマを試料に鋼製の当て金を介して1回落下させる。ハンマの質量は $2.0 \pm 0.020$  kg、落下高さは $100 \pm 10$  mmとする。

衝撃は、附属品の最も弱い部分に適用する。ただし、電線管接続口の端部より5 mm以内には衝撃を加えないものとする。

試験の後、試料に破壊の兆候、目視で見ることのできる割れの発生及び通常の使用に支障をきたすような変形があつてはならない。

図1



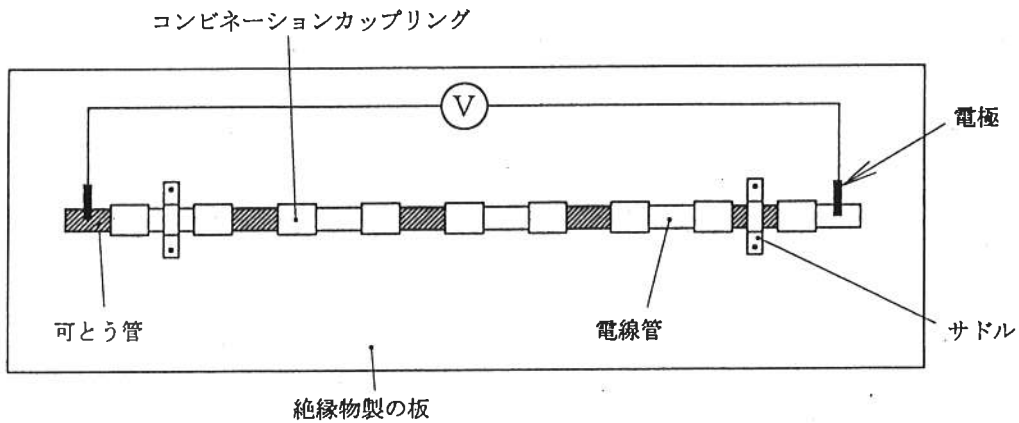
### ③ ボンディング試験

ボンディング試験は、図3のように配列、接続した組立品を試料とする。試料に無負荷電圧が12V以下の交流電源から得られる周波数50Hz～60Hzの25Aの電流を1分±5秒間通電し、電圧降下を測定する。電流と電圧降下から電気抵抗値を計算で求める。

$$R(\text{抵抗値}) = V(\text{電圧}) \div I(\text{電流})$$

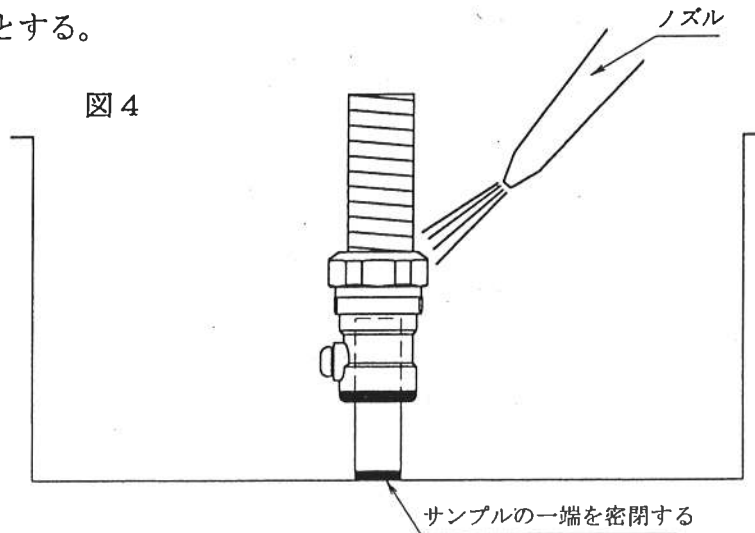
$$\Omega = V \div 25A \quad \text{判定は} 0.05\Omega \text{以下であること。}$$

図3



### ④ 防水性試験

防水性試験は、図4に示すようにコンビネーションカップリングを適合する可とう管及び電線管に接続し、JIS C 0920に規定する、IPX(耐水型)試験方法によって行い、いかなる方向からの水の直接噴流を受けても内部に水が入らないものとする。



⑤ 耐食性試験

サンプルを、JIS K 8594又は類似する化学薬品に浸漬した布で洗浄し、乾燥させる。次に、これらは0.75%のフェリシアン化カリウム $k_3[Fe(CN)_6]$ 及び0.25%ペリオキシニ硫酸アンモニウム $[(NH_3)_2S_2H_4]$ の水溶液中に完全に浸漬させて約0.1%の量の浸透剤を、例えばアルキル・ナフタレン・スルホン酸のナトリウム塩を加える。

溶液とサンプルは、 $23 \pm 2^\circ C$ の温度に維持する。

各サンプルは、毎回、新しい溶液を使用して試験する。

各サンプルは、5分間浸漬させた後、溶液から取り出し、空気中に放置して乾燥させる。

上記の試験を行ったとき、サンプルは表面の1平方cmごとに2個以上の青色のはん点が生ぜず、かつ、はん点が生じた場合、各はん点の寸法は1.5cm以下でなければならない。ただし、鋭いエッジ部、ねじ山、及び機械加工面のさびのこん跡、及びこすって取り除ける黄色の膜は無視してもよい。